



会計大学院協会ニュース No.1

会計大学院協会ニュース 創刊にあたって

会計大学院協会 理事長
加古 宣士 Yoshihito Kako

会計大学院紹介

青山学院大学大学院
明治大学大学院

第1回会計大学院協会シンポジウム
会計大学院協会創立総会及び記念レセプション

Contents

会計大学院協会ニュース創刊にあたって	2
会計大学院協会理事長 加古 宜士	
会計大学院紹介	3
青山学院大学（青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科） 明治大学（明治大学大学院会計専門職研究科）	
会計大学院協会創立総会及び記念レセプションパーティ	5
第1回会計大学院協会 シンポジウム	6
「アカウンティング・スクールへの期待と展望」	
会計大学院協会WEBサイト開設	7
会計大学院協会の活動状況及び今後の活動予定	8

会計大学院協会ニュース

創刊にあたって



加古 宜士 Yoshihito Kako 会計大学院協会 理事長

本年（2005）4月、全国の会計専門職大学院を中心に、来春（2006年）にも会計専門職大学院を設立しようとしている大学、さらには日本公認会計士協会、日本税理士会連合会など、会計専門職大学院を積極的に支援しようとする諸団体が結集し、「会計大学院協会」を設立しました。

このたび創刊の運びとなった「会計大学院協会ニュース」は、この会計大学院協会が行う活動の状況を広く社会に向けて報告するための手段として、また、一般社会から会計大学院に対する要請や叱正などをお寄せいただくための手段として、活用させていただきたいと考えています。

今日、企業の生産・販売活動やそれを支える資金調達活動などが国境を越えて拡がりつつあり、これに伴って、会計および監査実務の国際的な水準の確保が強く要請されるようになってきました。

また、最近における会計・監査の実務においては、企業活動の複雑化・高度化に伴って、会計のみならず、経営、ファイナンス、経済、統計、法務等の

関連分野に関する深い学識をも備えた人材が求められるようになってきました。

わが国の現状では、そうした人材の育成やリカレント教育を体系的に行う教育機関はきわめて乏しいと言わざるを得ません。会計専門職に関する高度の教育機関が強く要請される理由はここにあります。

わが国においては、2003年春に公認会計士法が改正され、会計士制度の抜本改革が行われたところでありますが、これは欧米における会計士制度との調和を図るためであって、わが国の公認会計士制度面でのグローバル化を一層促進し、企業の国際競争力を高めることを狙いとしたものです。

ここでの制度改革における重要な狙いの1つは、高度の専門能力を持った会計プロフェッションを養成することにあります。これによって、わが国における公認会計士を含む会計プロフェッションの質の向上と数の増大を目指すこととされたのです。

現在わが国の公認会計士の数は会計士補を含めて約21,500人であるが、政府は、2018年（平成30年）までに公認会計士の数を5万人に増やすことを目標としています。政府の目標とする5万人の内訳としては、約3万人が公認会計士として監査業務に従事し、約2万人は企業の内部や、官庁または公益法人等の非営利組織体で活動するものと見込まれています。後者の企業や非

営利組織体の内部にあって、内部監査や財務のコントロールに従事する公認会計士は、企業や非営利組織体の経営財務や事業計画に貢献することが期待されています。このような状況はアメリカなどでは、すでに一般的になっているところであって、わが国においても、このような状況を目指そうとしているのです。

ところで、最近の報道によれば（例えば、10月23日付け日経新聞）、わが国の4大監査法人は、この秋の新人採用を昨年比20～30%増やすと言われています。最近における相次ぐ粉飾決算の表面化から、監査の品質の水準を維持するためにも、公認会計士を含む会計専門家の増員は不可避と判断されているようです。

会計専門家の質的向上と量的増大という要請は、すでに現実のものとなっているといえましょう。会計大学院では、このような社会的期待に応える本物の人材を育成するための本物の会計教育を実現したいと考えています。

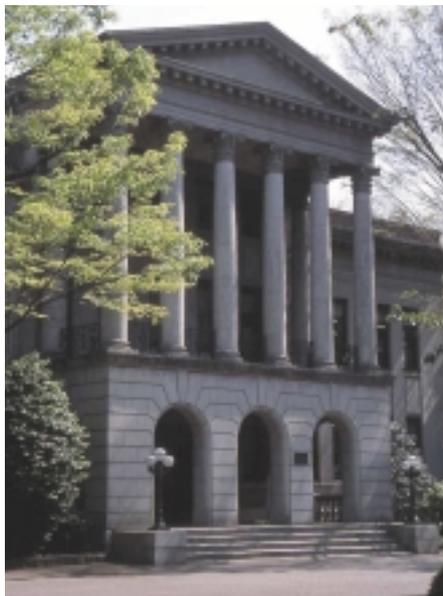
皆様のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科

Aoyama Gakuin University Graduate School of Professional Accountancy

鈴木 豊 Yutaka Suzuki 会計プロフェッション研究科長

本大学院の特徴は、まず何よりもキリスト教にもとづく教育方針に合致した愛と奉仕の精神をもって社会に貢献する「健全な会計マインドを備えたプロフェッションの養成」である。このことは会計専門職大学院創設の趣旨である倫理教育の徹底と国際会計人の養成目的とが一致したものであり、これらの目標を達成出来るように、可能な限りの教育・研究・実践のために必要な資源を投入したのである。以下のような特色がある。



学習室内の個人用キャレル

- ① 会計専門職大学院の養成する人材を、社会のあらゆる領域で必要とされる会計専門家として公認会計士、企業や非営利の公的機関の財務・会計責任者や他の資格取得希望者にひろげていること。
- ② 新公認会計士試験制度の短答式一部免除要件に合致したカリキュラム内容と教育の質を保持している。
- ③ 国際的な会計専門家の基準として定着している F A C の職業会計士教育国際基準に合致した教育プログラムを設定したこと。
- ④ まさに現在求められている職業倫理教育を、必修科目と授業科目のすべての中で倫理性すなわち会計マインドの違いを修得させる教育方法をとっていること。
- ⑤ 国際的な会計感覚を備えた専門職業人を育成する英文会計・国際会計の講義とディベートを可能にする科目内容で設置していること。
- ⑥ 本学の面倒見のよい教育方針を達成する為の少人数制の演習、論文作成指導やコミュニケーションスキルを向上させる科目の設定。
- ⑦ 青学会計人クラブメンバーの属する監査法人や会計事務所での会計実務トレーニングを行うエクスターンシップの設定。
- ⑧ 理論教育と実践教育の連携及び多様な会計プロフェッションを育成するため145科目を設置し、専任16名を含む52名（内半数以上が実務家資格保有者）の教員を任用したこと。
- ⑨ 入試に社会人入試を導入したこと。

このような充実した環境の中で院生の新1年生は自分自身をどのように鍛え勉強しているのだろうか聞いてみた。A男君は、公認会計士試験を目指し

ており、朝7:30からまず簿記から勉強を始め、財表・監査・原計その他の科目をおおむね毎2時間半位で、授業の間に会計専門職大学院棟の個人用キャレルで勉強している。授業内容が専門学校教育とは違った理論面や原則・基準面の理解に有用と考えており、計算演習については特別科目で補充され、また演習（ゼミ）で指導教授の種々の相談や指導を受けられて非常に恵まれていると話している。O子さんは、今迄の金融機関での経理経験を大学院でスキルアップして会計専門職として再就職希望であり、必修科目と経理プロフェSSIONALに必要な授業科目を履修している。レポート課題や双方向的授業という専門職大学院の授業と宿題をキャレルで勉強したり、緊張感ある演習授業や公園のようなキャンパスで、厳しくも楽しく院生生活を過ごしているとのことである。



「監査論」(町田祥弘教授)

明治大学大学院 会計専門職研究科

Graduate School of Professional Accountancy

長吉 眞一 Shinichi Nagayoshi 会計専門職研究科 教授

明治大学大学院会計専門職研究科 (Meiji Accounting School, MACS) では、高度の会計専門職業人を養成するために、さまざまな新しい会計教育を行っている。また、カリキュラム構成は新公認会計士試験制度の趣旨にも則っている。

MACSの特徴的な教育例を挙げれば次のとおりである。

まず、授業科目は、基本科目としての原理科目、より高度な専門知識と技能を学ぶ発展科目、最先端の知識と応用能力を修得する応用・実践科目に分け、段階的に学習できるように配慮している。院生は、各科目の授業水準と自己の能力に応じてこれらを修得できる。分野別には、財務会計系、国際会計系、管理会計系、監査系、企業法系、租税法系、経営・ファイナンス系、そして経済・統計系の8系に分けている。院生は、将来の希望や進路方針に応じてこれらを選択・履修できる。

また各院生は、設置科目を1日3コマまで受講できる。受講コマ数を1日3コマまでに限定した理由は、受身的に受講するのではなく、講義の予習と復習を十分に行って積極的に授業に参画できるようにするためである。そして、授業の空き時間を有効に活用できるように、院生研究室を設けて机やロッカーを貸し与自分で学習できるようにしたり、簿記や原価計算の計算演習を行うために電卓を使用できる専用コーナーを設けたりしている。また、数人による議論や討論ができるようにディスカッション・ルームも設けている。

応用・実践科目に設けた各科目のケーススタディの授業では、理論的考察と実践的応用能力を涵養することが目的である。そのために、さまざまなテーマについて院生各自が論点を発表し、そしてそれについて全員でディスカッションを行っている。これはいわばゼミナールに相当する授業であり、少人数でかつ教員と院生とが双方向で討論を行うものである。院生は、これによって会計専門職業人としての倫理観、理論的考察・判断能力および実践的応用能力を涵養することができるようになる。

国際会計および国際監査に対応できる能力を修得するため、カナダ・トロントのヨーク大学国際英語研修センターとSchulich校 (MBA) の研修プログラムに基づいてケーススタディとビジネス英語研修を行う。また、そのための準備として、3人の英語教員 (native speaker) によるビジネス・プレゼンテーションとビジネス・コミュニケーションという科目を設け、英語による自己表現能力と意思疎通能力の向上を図っている。この2科目は10人程度の少人数による密度の濃い授業である。

その他、IT実践教育を実現するために、大手システム・インテグレーターと授業提携をし、教室・校舎のIT環境の完備を進め、また、専任教員がオフィスアワーを設けて、学生とのコミュニケーションを図るなど、新しい教育手法に積極的に取り組んでいる。



「監査の原理」(山浦久司教授)



「ビジネス・コミュニケーション」



会計大学院協会創立総会及び 記念レセプション

去る2005年4月6日（水）16：00より、東京都港区 虎ノ門パストラルにて、会計大学院協会創立総会及びレセプションが開催された。

本年4月より10校の大学で、会計大学院がスタート。そこで会計大学院相互の協力を促進し会計大学院における教育水準の向上を図り、優れた会計職業人を養成し、社会に貢献することを目的として会計専門職大学院が集結して、会計大学院協会を創立することとなった。創立総会では、宮崎 緑氏（千葉商科大学助教授）を司会に、世話人代表・議長の加古宜士氏（早稲田大学）の紹介から始まり、高田敏文氏（東北大学）より創立の趣旨及び経過の報告、山浦久司氏（明治大学）より規約についての説明があり、これが承認された。

続いて、理事の選出及び役員を選出が行われ、理事長には加古宜士氏、副理事長には高田敏文氏・山浦久司氏が選任された。役員一覧は以下の通り。

理事長	加古 宜士（早稲田大学）
副理事長	高田 敏文（東北大学）
副理事長	山浦 久司（明治大学）
理事	鈴木 豊（青山学院大学）
理事	石原 俊彦（関西学院大学）
理事	麻生 幸（千葉商科大学）
理事	富塚 嘉一（中央大学）
理事	永野 則雄（法政大学）
理事	吉見 宏（北海道大学）
理事	若杉 明（LEC大学）
監事	八田 進二（青山学院大学）
監事	本橋 正美（明治大学）
幹事	川村 義則（早稲田大学）
（以上、大学名五十音順）	



続いて、17：00より創立記念レセプションが盛大に行われた。

今回、全面的にご協力いただいた千葉商科大学長の加藤 寛先生をはじめ、政治家の先生方・会計界のトップでご活躍の先生方には、ご多忙のなかわざわざお越しいただき大変貴重なお話をいただいた。簡単な概要は以下の通り。



記念レセプション概要

会場：虎ノ門パストラル 新館1F 鳳凰西

司会：宮崎 緑（千葉商科大学助教授）

プログラム

1. 理事長挨拶
 2. ご挨拶
 - （1）森 喜朗（前内閣総理大臣）
 - （2）藤沼 亜起（日本公認会計士協会会長）
 - （3）金子 晃（公認会計士・監査審議会会長）
 - （4）伊藤 達也（内閣府特命担当大臣（金融））
 3. 乾杯

塩川 正十郎（前財務大臣・元文部大臣）
 4. ご挨拶
 - （1）塩崎 やすひさ（衆議院議員）
 - （2）竹中 平蔵
（内閣府特命担当大臣（経済財政政策）、郵政民営化担当）
 - （3）奥山 章雄（前日本公認会計士協会会長）
 5. 中締め挨拶

加藤 寛（千葉商科大学長）
- 各役職等は、2005年4月6日現在のものとする



第1回会計大学院協会 シンポジウム 「アカウンティング・スクールへの期待と展望」開催

2005年10月8日、第1回会計大学院協会シンポジウム『アカウンティング・スクールへの期待と展望』が兵庫県宝塚市、宝塚ホテル、宝寿西中の間にて開催されました。

当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、多くの参加者のなか活発な討論が行われました。概要は以下のとおり。

第1回シンポジウム概要

- 日時：2005年10月8日（土）
 場所：宝塚ホテル：阪急今津線 宝塚南口駅
 （6F 宝寿西中の間）
 主催：会計大学院協会（開催担当校：関西学院大学）
- プログラム**
- 13：30 開会挨拶
 加古 宜士 会計大学院協会理事長（早稲田大学）
 - 13：45 基調講演
 佐伯 剛 日本公認会計士協会 近畿会会長
 「アカウンティング・スクールに期待する」
 - 14：15 コーヒーブレイク・相談コーナー
 - 14：45 パネルディスカッション
 「アカウンティング・スクールの使命と展望」
 コーディネーター：高田 敏文教授（東北大学）
 パネリスト：河崎 照行教授（甲南大学）
 柴 健次教授（関西大学）
 山浦 久司教授（明治大学）
 西尾宇一郎教授（関西学院大学）
 - 16：15 閉会挨拶 平松一夫学長（関西学院大学）



開催担当校としてご尽力いただいた既設校の関西学院大学をはじめ、関西大学、甲南大学、立命館大学と来年度より関西地区では4校のアカウンティング・スクールが設置されることとなります。その効果もあってか会場には多くの学生の姿も見うけられました。休憩時間には専用ブースが設置されアカウンティング・スクールへ進学する人を対象とした相談コーナーが開かれるなど、関係者のみならず学生諸君にとっても貴重な経験となったことでしょう。

次回（第2回）は、明治大学を開催担当校として、12月22日（木）に開催する予定です。



会計大学院協会WEBサイト開設

<http://www.zeikei.co.jp/kaikei/top.htm>

WEBサイト開設

2005年8月に会計大学院協会のWEBサイトが開設されました。現在掲載しているコンテンツは、「会計大学院協会設立の趣旨」、「規約」、「会計大学院協会理事長 加古宜士先生の挨拶」、「会計大学院協会正会員校・準会員校・賛助会員の紹介」等です。まだまだコンテンツ不足の感はありませんが、正会員・準会員・賛助会員の紹介ページなどは各会員の大学・協会のWEBサイトにリンクされており、より詳しい情報を求める方々が当サイトを会計大学院のポータルサイトとして使って頂けるように充実させていきたいと考えております。アクセス数・知名度などを上げるために皆様の学校等で会計大学院協会へのリンク・バナー等を表示していただけますと幸いです。

今後・予定

今後、シンポジウムや理事会などの予定・開催時の様子などを写真とともに掲載する予定であります。また、各会計大

学院等で行われるセミナーやイベントの情報なども紹介していくことも考えておりますので、当WEBサイトに掲載したい情報等がございましたら、事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

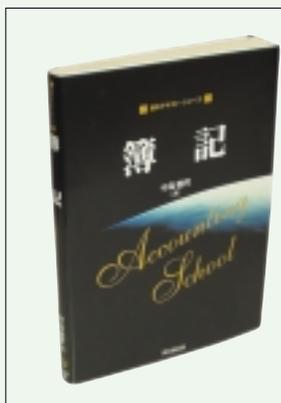
現在、更新のペースは不定期となっておりますが、常に新しい有益な情報をお届けしていきたいと考えております。当



Books

会計大学院向け

テキスト新刊案内



公認会計士試験制度対応 基本テキスト・シリーズ

財務会計理論	橋本 尚 [著]	簿記	中島稔哲 [著]
経営学	唐沢昌敬 [著]	会計基準	小林秀行 [著]
会計制度	山地範明 [著]	税務会計法	鈴木 豊 [著]
法人税法	下村英紀 [著]	連結会計	榎本正博 [著] — 法師信武
租税法	佐藤正勝 [著]	財務諸表分析	乙政正太 [著]
内部監査	松井隆幸 [著]	管理会計	青木雅明 [著]
公会計	稲沢克祐 [著]		

A5判 定価 2,100円(税込) 同文館出版

財務会計の理論と応用

Financial Accounting Theory and Analysis
Written by Richard G.Schroeder, Myrtle W.Clark, and Jack M.Cathey

R.G.シュレーダー M.W.クラーク J.M.キャシー [著]

加古宜士 大塚宗春 [監訳]

川村義則 鈴木学 森田佳宏 福島隆 金子良太 藤木潤司 [共訳]

A5判 定価 7,140円(税込) 中央経済社



1 創立総会

会計大学院協会の創立総会を、千葉商科大学を幹事校として、平成17年4月6日に虎ノ門パストラルを会場に開催いたしました。また、創立総会后に、創立記念レセプションを開催し、多数のご来賓、関係各位のご参加をいただきました。（5頁参照）

2 理事会

会計大学院協会の第1回理事会を、平成17年5月21日に明治大学を会場に開催いたしました。
また、第2回理事会を、平成17年8月1日に早稲田大学を会場に開催いたしました。

3 セミナー

会計大学院協会の第1回セミナーを、平成17年5月21日に明治大学を会場に開催いたしました。テーマは「会計大学院既設校による文部科学省認可申請に関するラウンドテーブルディスカッション」でした。

また、第2回セミナーを、平成17年8月1日に早稲田大学を会場に開催いたしました。テーマは「会計大学院既設校におけるカリキュラムの現状に関するラウンドテーブルディスカッション」でした。

両セミナーとも、正会員のほか、準会員となることを検討している関係各位にも多数ご参加いただきました。

4 シンポジウム

会計大学院協会第1回シンポジウムを、関西学院大学を開催担当校として、平成17年10月8日（土）に宝塚ホテルを会場に開催いたしました。会員・準会員・賛助会員の関係各位のほか、会計大学院に興味をお持ちの学生その他一般の方々にも多数ご参加いただきました。（6頁参照）

5 今後の予定 変更することがあります。

理事会 —— 第3回（平成17年12月22日（木）、於明治大学）
第4回（平成18年2月13日（月））

シンポジウム —— 第2回（平成17年12月22日（木）、於明治大学）

FD講習会 —— 第1回（平成18年2月頃）
第2回（平成18年3月頃）

会計大学院協会ニュースNo.1 平成17年12月15日発行

お問い合わせ先

会計大学院協会係（株式会社 税務経理協会気付）

〒161-0033 東京都新宿区下落合2-5-13

TEL 03-3953-3301 FAX 03-3565-3391

<http://www.zeikei.co.jp/kaikei/top.htm> E-mail : kaikei-d@zeikei.co.jp

担当：峯村・武田・小林

【営業時間：9:00～17:30（土・日・祝日は休み）】

会員校

- 青山学院大学（青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科）
- 関西学院大学（関西学院大学大学院経営戦略研究科会計専門職専攻）
- 千葉商科大学（千葉商科大学大学院会計ファイナンス研究科）
- 中央大学（中央大学大学院国際会計研究科）
- 東北大学（東北大学大学院経済学研究科会計専門職専攻）
- 法政大学（法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科アカウンティング専攻）
- 北海道大学（北海道大学大学院経済学研究科会計情報専攻）
- 明治大学（明治大学大学院会計専門職研究科）
- LEC大学（LEC大学大学院高度専門職研究科会計専門職専攻）
- 早稲田大学（早稲田大学大学院会計研究科）

準会員校

- 愛知大学（愛知大会計ファイナンス研究科）
- 大原大学院大学
- 関西大学
- 熊本学園大学
- 慶應義塾大学
- 甲南大学（会計高等教育研究所）
- 専修大学
- TAC大学院大学
- 同志社大学

賛助会員

- 日本公認会計士協会
- 日本税理士会連合会

